

のざま このさき会議

野崎エリアの未来を考える

野崎駅周辺では、のざまいりやハイキングで訪れる人との関わりを大切にしながら、地域のみなさんが安心して暮らしやすく、働きやすいまちをめざして取り組みを進めています。その一環として、2025年10月より、地域のみなさんと一緒に野崎の未来を考えるワークショップ「のざまこのさき会議」を開催しています。野崎のまちをもっと良くしたい方、これからの地域づくりに興味のある野崎在住者やお勤めの方、大学生などが参加しています。近隣にお住まいのみなさんの声も聞きながら、ワークショップに参加するみなさんと「こんな暮らしができたらいいな」という、野崎の未来のすがたを一緒に描いてきました。

第3回 **1/21** 18:30-21:00 | ビジョンの実現方法をみんなで考えよう！

プログラム

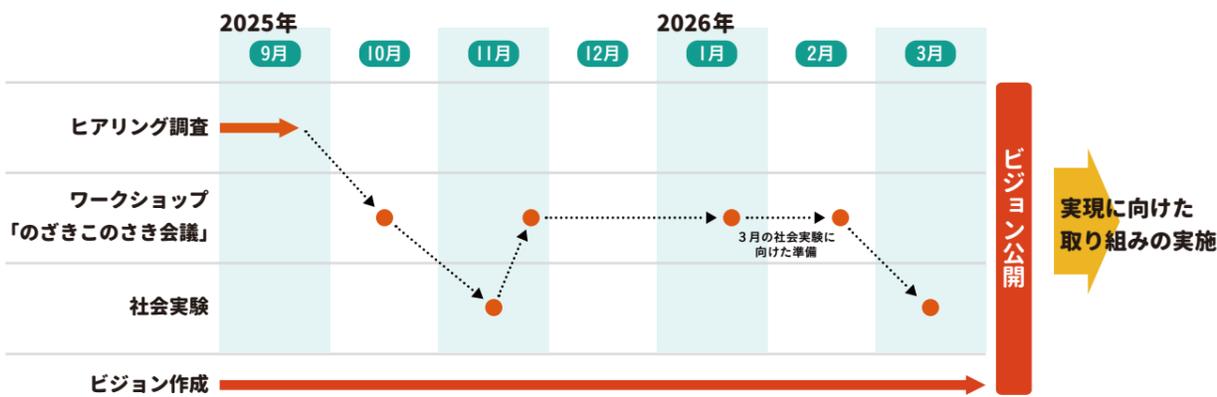
1. はじめに
2. みんなで自己紹介
3. 前回のふりかえり
4. エリアビジョン案について
5. 意見交換①「誰とどんなことができそう？」
6. 意見交換②「実現に向けて必要なものは？」
7. 発表
8. 今後に向けて
9. おわりに

野崎駅周辺のまちづくりについて

大東市では、野崎駅周辺のこれからの姿をみんなで考えながら、空き地や公共施設を、地域にとって役立つ場所として活用できないか検討を進めています。これまでに、野崎駅周辺の現状と課題の整理や、空き地の活用を住民のみなさんと学ぶ勉強会の開催などを行い、少しずつ“野崎の未来を考える土台”をつくってきました。

今年度は、野崎に暮らすみなさんや学生、行政が一緒になって、地域の特性や課題を考え見つけながら、ビジョンづくりを進めています。

- 野崎には何があれば暮らしがより豊かになるのか？
 - 空き地をどう活かすと、この地域らしい場になるのか？
 - 暮らす人たちが安心して暮らすにはどうすればいいのか？
- 今年度考えたビジョンをもとに、今後は、さらにビジョンの実現に向けての活動を進めていきたいと考えています。



●野崎エリアのビジョンお披露目会について

3/7 (予定) | **ビジョンお披露目会**

これまで「のざまこのさき会議」で話し合ってきた、野崎エリアのこれからのビジョンを地域のみなさんに共有する「お披露目会」を開催します。当日は、ビジョンの紹介に加え、「これから何ができそうか」「自分にできる関わり方」についても、気軽に話せる場にしたいと考えています。すぐに実現できそうなビジョンはいくつか試してみる予定です。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。※日時・場所などの詳細は、決まり次第大東市のホームページ等でお知らせします。

ビジョンのお披露目会をします！

主催・問合せ先
大東市 都市経営部 都市政策課 (072-870-0483・juto@city.daito.lg.jp)



前回のふりかえり

前回は11月末に開催しました。社会実験時のイベントで地域の方々から集めた意見を壁に貼り出し、それを実際に見ながら、「これからどうしていくか」を参加者全員で話し合いました。実現できるかどうかはいったん置いておき、まずは自由にさまざまな意見を出し合う場となりました。主な意見は次の通りです。

前回の意見交換で出た主なアイデア

<野崎愛を発信できる場>

- ・エリア外からは「野崎は良い場所」と見られている
- ・「野崎が好き」という声が多く、魅力の再発見と発信が大切
- ・「野崎愛」を軸に、人をつなぐ案内所的な場があると魅力が伝わる
- ・常設が難しければ、イベント的な集まりでも可
- ・エリア内向けにも、楽しみや安心につながる情報発信が必要

<空き地の活用>

- ・外で食事ができる場や、趣味を通じた居場所づくり
- ・農園は本格整備の前に、プランターから試す



<交流・コミュニティづくり>

- ・ペットを介した交流(ドッグラン的な場)
- ・外国籍の方との交流の機会づくり

<立ち寄り・滞在しやすい環境づくり>

- ・参拝・登山者が立ち寄れるスポットづくり
- ・テーブル・椅子の設置による立ち寄りやすさ

<地域資源の活用>

- ・駅前の水路の歴史的資源としての活用

など

ビジョン案について

これまでの意見をもとに、野崎エリアが「楽しく、豊かに暮らせるまち」になることをイメージし、3~5年後を見据えた6つのビジョンをまとめました。遠い将来像ではなく、身近に想像できる姿を描いています。ビジョンはこれが完成形ではなく、今後も更新しながら使っていくことを前提としています。地域には多様な人が暮らしているため、1つに絞らず、ライフスタイルに合わせて選べる複数のビジョンを設定しています。

対象エリアは野崎駅周辺から商店街・図書館付近までですが、周辺地域とも連携しながら進めていくことを想定しています。

6つのビジョン(案)

設定した6つのビジョンは以下のとおりです。

- ①まちとの関わりが普段の生活の一部になるまち
- ②地域の人が助け合える・見守りのあるまち
- ③趣味や文化を介して交流できるまち
- ④若者や学生が集いなくなるまち
- ⑤訪れた人が野崎のことをもっと好きになるまち
- ⑥生活をたのしくする情報が手に入るまち

これら6つのビジョンを実現するために、現在18の具体的な取り組み案を整理しています。今後は、これらのビジョンと取り組みを冊子としてまとめ、地域の皆さんと共有しながら、できるところから実践につなげていくことを目指しています。



意見交換①「誰とどんなことができそう？」

今回のビジョンは、「こんなことができたらいい」という理想の姿を先に描き、そこから「では今何ができるか」を考える方法(バックキャスト)で整理しています。イラストは完成形ではなく、あくまでイメージを共有するためのものです。すべての取り組みを一度に実現するのではなく、「まず何から始められそうか」を参加者同士で見つけることを目的としています。そのため、18の取り組み案の中から、まず「優先的に考えたいテーマ」をいくつか絞り込みます。はじめに、18の取り組み案の中から「やってみたい」「応援したい」「地域にとって大事だと思う」ものを選びました。共感する案にシールを貼りながら、3つのテーマに絞りました。



意見交換②「実現に向けて必要なものは？」

3つに絞ったテーマの中から、関心のあるテーマに分かれ「どうすれば実現できそうか」「最初の一步として何ができるか」を話し合いました。



各グループの発表内容

グループ1

もしも野崎に[参拝や登山帰りに立ち寄れる場所]があったら



参拝者がふらっと立ち寄れる場所づくりとして、野崎まいり公園を候補にしたアイデアが出ました。「荷物を預けられるロッカーがあれば立ち寄るきっかけになるのではないか」という提案です。ロッカーはDIYで設置し、コイン式にして学生が飲み物を提供するなど、小さなぎわいづくりにつなげる可能性が話し合われました。商店街と連携する案も出ています。観音さんの日に合わせたイベントや、野崎駅で途中下車した人が帰りに立ち寄る動線づくりなど、立ち寄りを促す工夫についても検討しました。

グループ2

もしも野崎に[学生を応援してくれるしくみ]があったら



大学生がなぜ野崎を訪れないかを整理しました。「気軽に食事できる場所がない」「バイト先がなく野崎に住む理由が見えにくい」といった声があがりました。通学やアルバイトの利便性から、野崎は選ばれにくい現状も共有されました。大学の授業では野崎を題材にした提案が出ているものの、実現につながる仕組みがありません。チラシ制作などの小さな仕事から、学生と企業・地域と一緒に実践できないかというアイデアが出ました。今後は、学生と企業をつなぐ場づくりが課題です。

グループ3

もしも野崎に[まちと人をつなぐ場所]があったら



はじめは、観光地にある「案内所」をイメージしていましたが、野崎は観光地が多いわけではありません。そこで、野崎に住む人や野崎が好きなお店の「やってみたいこと」や「こだわり」を発信・交換できる場としての「案内場」と意味を捉え直しました。常設か、難しければ月1回の集まりから小さく始めることで、それ自身が「案内所」になっていくのではないかと考えています。野崎好きが日常のつながりの中で思いを伝えていくことまちに広がっていくのではないかと話になりました。